

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110413994		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 青空		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番13号		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町村受理日	平成24年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0110413994&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が隣接する医療法人で入居者の健康に関して全面的に相談できる仕組みが確保されている。
また、管理者は看護師で入居者と家族の安心につながっている。
栄養士が献立作成しているため栄養のバランスに配慮された食事になっていて入居者の楽しみになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者を多面的に支えるための、医療と介護、福祉の複合施設として郊外の広い敷地に、運営母体の病院を中核に、二つのグループホーム、およびケアハウスが隣接して設置されている。医療連携体制を取っていることもあり、医療面でのバックアップ体制は手厚く、利用者・家族の多くは複合施設への信頼により、このホームを選択している。管理者は看護師と介護支援専門員の資格が必須とされて、病院は24時間、365日常時対応する体制になっており、院長自ら早朝より全館全利用者を訪問して回るなど、医療、健康面での支えには格段の配慮が行き渡っている。複数の関連施設が一体化していることによる利点を最大限に生かされており、全館をつなぐ廊下は、季節や天候を問わず、散歩を楽しめるコースとして利用され、各施設の利用者が随所で交流することができ、共用の多目的ホールでは多彩なイベントが催されて、レクリエーションの楽しみが豊富に享受できる。共用のドライバー付きバスが自由に使えて、遠方への外出も容易に実施できる。多目的ホールを活用して近隣のボランティアの催し物や小学生のよさこいソーラン踊りを受け入れたり、子ども神輿の来訪を受けたりなど、地域との交流には特別の努力と工夫が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした穏やかな暮らしを大切し利用者の命のケアとご家族の心身の緩和に努めます」職員はこの理念を記載したカードを常時携帯して日々のケアに生かしている	地域密着型サービスの意義を踏まえた、簡潔な理念が掲げられ、玄関、台所、事務コーナーなど要所に掲示され、職員は名札の裏に記載して携行し、周知に努めている。日常業務で、理念を想起して判断するなど、実践の中に浸透していると受け止められている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して新年会、総会、清掃に参加して地域の人達と交流している 小学校の運動会の見学、夏祭り、買物、散歩に出かけ挨拶をしている	町内会に加入しての各種活動への参加、小学生のよさこいソーラン踊りや神社の子供神輿での施設来訪、小学校の運動会見物、地域のボランティアの多目的ホールでの様々な芸の披露など、多彩な地域交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会会長さんが出席して質問したり出前講座を聞いて地域に持ち帰っている 実習生を受け入れて人材育成に貢献している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の報告、行事計画、入居者の日々の暮らし、外部評価の報告して色々な意見を頂いて参考にしている	運営推進会議は、2か月に1回、定期的に開催され、町内会長、地域包括支援センター、家族が参加している。家族は毎回6人前後と、多数参加している。議題は行事計画、防災、特に震災関連対策、認知症サポーターなどが取り上げられている。	町内会の婦人部長や民生委員もメンバーに加えることを検討中とのことであるが、グループホームあるいはその複合施設は地域にとっても重要な資源であることの理解を得て、メンバー拡大の実現を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員が運営推進会議に出席しています。疑問点、わからない事は質問して意見を頂いています	生活保護についての相談は区役所担当と緊密に行っている。通常の行政との連絡折衝は管理者が行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない事を遵守しています。安全面に配慮して自由な暮らしを心がけている	身体拘束をしないことは重要事項にも明示して利用者家族に確約しており、職員の外部研修参加とその内部報告、事例集など各種資料の整備などにより、順守されていると認知されている。気になる声掛けがあった時などはその都度注意している。玄関は夜間だけ施錠し、昼は開放して見守りで安全を確保している。	研修で得た知識や資料の情報などに加えて、職員全てが、現場の実践の中で些細な拘束をも見逃さないための、実践的な検証の機会を設けることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	人間の尊厳を第一に考えております。研修に参加して学習する機会がありました。不適切なケアについて話し合いました		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会がありました。入居者の一人が制度を使っております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、又は改定時は文書と口答で説明している 疑問点はいつでも声をかけて下さいとつけ加えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望が話しやすいように笑顔で対応している 外部評価のアンケートの結果をみてサービスの検討をしている	家族の来訪は週に2回から月に1回程度までであるが、その折にはできるだけ多く声をかけて、要望や意見などを聞き出すように心がけている。一人ひとりに職員が手書きの手紙を書いて様子を報告しており、その中で意見や要望の問いかけをしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝申し送り後にミニカンファレンスをして色々な意見を出している 月一回管理者会議があり職員の意見を出して回答を持ち帰る事もある	毎朝の申し送りカンファレンスで、職員が自由に意見を出せるようになっているが、主にケアの方法についての意見が活発に交わされている。管理者は、法人の管理者会議で職員の意見を報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間、公休の確保し時間外はないようにしている 休みの希望を受け入れて働きやすい環境になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のパンフレットを提示して希望をとったり勤めている 院内研修には積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区の管理者会議でネットワークづくりや学習会を行なっている 同じ法人のグループホーム、ケアハウスのスタッフと交流して色々な気づきをケアサービスに生かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を受け入れようとする気持ちを持って笑顔でやさしく対応し話しやすい雰囲気をつくっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯をゆっくり話を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの環境に徐々に馴れで安心して過ごせるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意分野で力を発揮してもらい感謝の気持ちを言葉で伝えている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告して家族と一緒に支えるような関係づくりをしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭り、法事、お墓参り等の参加を勧めている。家族にも今までの暮らしを続けていけるようお願いします	入居時に、本人の経歴や馴染みの人・場所についての情報を得ているが、本人から訪問したいという要望はあまり出ない。知人のホームへの来訪がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビをみたり余暇活動に参加して一緒に過ごしている。車椅子の介助、テーブル拭き等協力し合っている		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院の方へ移られても面会に行き話を聞いたり写真を届けたりして元気づけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフの色々な情報と家族からの情報を参考にしたり本人と雑談する中で思いを伺っているまた日々の行動や表情からくみ取っている	ほとんどの利用者は意思疎通が可能なので、思いや意向を把握することに困難はないが、多くが特別の訴えをすることがなく、このままでもいい、との意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に文書で記載して頂いている不明な点は口答で質問したり家族に伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを理解して出来ることに注目している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの原案をスタッフ会議に提出し意見を聞いて反映させている	介護計画は、計画作成担当である管理者が、家族をはじめ、必要な関係者の意見を聞きながら、また受診記録をもとに原案を作成する。本人は多くがこのままでもいい、という。管理者の原案をもとにスタッフ会議で検討し、家族の承認を得て介護計画とする。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に食事量、排泄、身体状況および本人の言葉エピソードを記録している、申し送りも詳細で記録と共に情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	眼科、耳鼻科等の専門医受診に付添いして情報提供している。ボランティアを受け入れて楽しみを多く持っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに買物に行ったり小学校の運動会の見学、地域の夏祭りに行ったり楽しみを持っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体の病院と歯科が協力病院になっている、受診時に同行して情報を伝達している	元来利用者は、当事業所が医療と一体化していることに期待して入居してくるので、すべての利用者について、かかりつけ医は当施設の協力病院になっている。受診の際は看護師である管理者が同行し、医師と緊密な連携を取っている。	

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が行なえるように看護師が配置されている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書と口答で情報を詳しく提供している面会に行き病院関係者と情報交換している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に文書と口答で説明している事業所で出来る所まで介護しています	重度化や終末期に向けた指針が整備され、入居時に本人・家族の確認を得てはいるが、病院が隣接し、緊密な連携が取れているので、多くの利用者が、終末期は病院で迎えることを希望する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の「救命講習」に参加している誤嚥時の吸引チューブの取り扱いをマスターしている協力病院に安全に早く受診を支援している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練があります 法人の病院から夜でも10人以上の応援の協力体制が出来ている	年2回、消防署の指導の下に、昼間と夜間の火災をそれぞれ想定して、避難誘導、通報、消火の訓練を行っている。敷地内に隣接する施設同士の応援・協力体制が完備されているが、町内会長には、万一の場合の応援要請をしてある。	地震、津波、洪水の災害についても、危険度の確認、日常の備え、対応方法、避難場所の確認、訓練などの検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い人前であからさまに介護したり誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している	介護は管理する事ではない、との意識化を図り、利用者から話を引き出すように心掛け、対応している。職員は、病院本体で行う接遇に関する研修会に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。難聴の方には筆談で意向の確認している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールがあるが本人の体調気持ち、希望を聞いて相談しながら過ごしている強制はしない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れ、汚れ等に対してプライドを大切にしたりさりげなくカバーして清潔感が持てるようにしている。理美容を促したり爪切りも心がけています		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、配膳のお手伝いをして職員も同じテーブルを囲んで一緒に食事をして楽しい環境作りをしている。自分達が手がけた畑でとれた野菜を食材にして会話を楽しんでいる	利用者は、野菜の下拵えや配膳の手伝い、テーブル拭きを行うなど、食事作業に関わっている。本人の誕生会には、好きなメニューを提供したり、行事食や園庭での野外食も取り入れている。食事中は静かなBGMをかけ、職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立した栄養のバランスがとれたメニューになっている。形態もお粥、刻み、トロミ剤を使用したり個別支援して摂取量の低下しないように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後出来る方は声をかけ、見守りをし出来ない方は本人の有する力を生かしながら清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えない方は排泄パターンを把握してトイレ誘導している。立ち上がり出来ない方には介助してトイレでの排泄を支援している	自立排泄の利用者が多い状況であるが、尿意が感じられない利用者の場合は、タイミングや声かけで誘導し、トイレ排泄を促している。夜間はポータブルトイレを使用したりして、移動による負担の軽減を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立メニューに便秘対策の食材を入れてある。毎日の水分補給、体操、散歩をして身体を動かしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	プライバシーや羞恥心に配慮してくつろいだ気分で入浴出来るように支援している。立ち上がり出来ない方も恐怖心がなく安全な入浴が出来るようにシャワー用椅子を使用している	火・金・日曜日以外の午後の時間帯で設定しており、拒否の利用者もなく、週2回の入浴ができています。入浴の感想を職員が聴いて、次回の対応に活かしたり、入浴前後に不快な思いや寒気を感じないよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活ペースで午睡したりソファでの居眠りを見守りしている。心地よく眠りにつけるよう食後から就寝に向けて静かな時間を持っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤ファイルを保管し全職員がみれるようになって服薬の見守り、又は介助しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来そうなお手伝いをして頂き感謝の言葉を伝えるようにしている。楽しみごとを一緒に考えて選択して頂いています		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪のない季節は車椅子の方も一緒に戸外散歩します バスドライブを計画してマイクロバスで家族の方も一緒に出かけました	お菓子のファクトリーや動物園、神宮などへバスドライブで出かけている。出先では楽しみ事を持ち、海辺ではカモメの餌付けなども体験している。事業所の園庭は、果実の木があるなど充実しており、季節ごとに風景を味わったり、果実の収穫を行っている。冬場は、毎日のように隣接の施設へ出かけ、渡り廊下を散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して少額のお金を所持しています売店や近所のスーパーに買物に行き自分の財布からの支払いを見守ります		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	公衆電話に誘導して楽しく話せるようにみまもり介助しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂から中庭が一望出来て季節感を肌で感じとれています 台所で料理している姿がみえたり音、においがして生活感が感じられる	共用空間は清潔に保たれ、衛生管理が行き届いている。ちぎり絵の作品や外出行事などの思い出の写真、季節感を感じさせる装飾品も程よく掲示されている。湿度が低い状況になりやすいため、時々濡らしたタオルをかけて対応しており、今後も更に注意深く点検する意向を示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にテレビがありソファでくつろいで気の合った同士が過ごしています 居室前にはベンチ、椅子があり談話したり休憩している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真、好みの置物等を飾り安心して過ごせるようにしている	居室ドアは、色違いの配色で設備し、自室と分かるよう、見当識に配慮している。カーテンとベットは備え付けであるが、好みのものを持ち込みも可能である。居室は、本人が安心できるよう、家具の配置や設えを工夫し、筆筒にラベルを表示するなどして使い勝手にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下には手すりがあり、バリアフリーで安全に配慮している。「便所、トイレ」の張り紙、各居室のドアは色分けしてわかりやすいようになっている		

目標達成計画

事業所名 グループホーム「青空」

作成日：平成 24年 1月 15日

市町村受理日：平成 24年 1月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に地域住民のメンバーが少ない。	地域の参加者を1名確保する。	積極的に情報収集し参加の声掛けをし、協力を依頼する。	4ヶ月
2	6	身体拘束の排除のための取り組みが充分ではない。	身体拘束マニュアルを作成する。	「身体拘束ゼロへの手引き」を参考にする。 研修に参加し情報、知識を共有する。	6ヶ月
3	35	地震災害の対策、対応の準備が少ない。	地震に対する日常の備えをする。	ホーム内の点検、災害時持ち出し品を備える。 地震防災マップを参考に学習する。	3ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。